

現存する“蔵”と新素材アルミが「相利共生」する建築空間デザインコンテスト 『SUSアルミ共生建築Competition』受賞作品が決定

アルミ製住宅・家具、建築構造材の製造販売を手がけるSUS株式会社（静岡県静岡市、代表取締役社長：石田保夫、www.sus.co.jp）ecom（エコム）グループが実施した、持続可能な社会における建築の「相利共生※」を考えるデザインコンペティション『SUSアルミ共生建築Competition』の受賞作品がこのほど決定いたしました。

※相利共生・・・異種の生物が行動的・生理的な結びつきをもち、1ヵ所に生活し、相互に利益のある状態。ヤドカリとイソギンチャク、アリとアブラムシなど共生の一種。

『SUSアルミ共生建築Competition』は、永続的に利用可能な環境に優しい素材であるアルミと、歴史的建築とを「相利共生」させることで、自然環境、文化、経済にとって無駄の少ないこれからの建築を考えるコンペティションです。今回はテーマをアルミと“蔵”とし、会津若松市七日町に現存する蔵群をモデルに、7月1日（水）から9月30日（水）まで建築空間デザインを募集しました。そして、応募作品は北川原温氏（建築家・東京藝術大学教授／審査委員長）、渋川恵男氏（七日町通りまちなみ協議会会長）、飯嶋俊比古氏（構造家・飯島建築事務所代表）ならびに弊社代表取締役社長・石田保夫の4名の審査委員によって厳正に審査され、このほど、最優秀賞に岩本賀伴さん（35歳、アトリエ代表）の作品『ZQWXUGL』が選ばれました。また優秀賞には、猪股宗一さん（22歳）の『創発 -アルミと蔵-』、小石川正男さん（61歳）・高田康史さん（27歳）・横村隆子さん（54歳）の共同作品『時代を装う食彩蔵 -時をつむぐアルミ万華鏡-』の2点が選ばれました。

最優秀賞に選ばれた『ZQWXUGL』は、幾何学的模様のアルミ構造ユニットを用い、4つの蔵群の関係性を再構築することで「相利共生」を具現化した作品です。仕上げ材と構造材双方の機能を合わせ持つアルミの特長をうまく生かし、耐震性と意匠性という機能とデザインを両立させるとともに、会津若松の歴史や文化という“重み”に対し、斬新なデザインのアルミを付加することで、より力強く、まちの中で際立った存在感を持つ建築物となっています（詳細は次々頁をご参照ください）。



最優秀賞作品『ZQWXUGL』

なお、本コンペティションの表彰式は12月3日（木）、恵比寿ガーデンプレイス内のウェスティンホテル東京で開かれ、最優秀賞を受賞した岩本賀伴さんには賞金100万円が贈られるほか、優秀賞受賞者にはそれぞれ賞金30万円が贈られます。そして、本コンペティションで集まった優秀作品は2010年1月、デザイン案の実現も視野に入れ、七日町通りのある会津若松市にて展示会を開催する予定です。

本件に関するお問い合わせ

SUS本社広報チーム：関口／電話 03-3222-6175／e-mail : sekiguchi-h@sus.co.jp

【受賞者一覧】

賞	賞典	作品タイトル	受賞者名	年齢	在住地域	所属
最優秀賞	100万円	ZQWXUGL	岩本賀伴さん	35	兵庫県 宝塚市	岩本賀伴／アトリエ
優秀賞	30万円	創発 － アルミと蔵 －	猪股宗一さん	22	東京都 新宿区	早稲田大学大学院 入江正之研究室
優秀賞	30万円	時代を装う食彩蔵 一時をつむぐアルミ 万華鏡－	小石川正男さん	61	東京都 練馬区	日本大学 短期大学部 建設学科 小石川研究室
			高田康史さん	27	東京都 豊島区	日本大学 短期大学部 建設学科 小石川研究室
			横村隆子さん	54	東京都 足立区	(有)横村隆子 YHT 環境設計

【SUSアルミ共生建築Competition 概要】

募集テーマ： アルミと“蔵”

提案の対象として、会津若松市七日町通りに面する敷地と、そこに建つ“蔵”群をモデルとして設定。“蔵”に対して、古さと新しさ、重厚さと軽快さ、文化と科学など、対比的なアルミ部材やアルミ構築物・建築物を付加することによって、その保存にも配慮しつつ、新しい機能、用途を提案し、相利共生する建築空間の提案を募集。

応募資格： 日本国内在住の方であれば資格は問いません。グループでの応募の場合は、代表者が日本国内在住の方であることとします。

応募期間： 2009年7月1日(水)～9月30日(水)

審査方法： 書類選考

審査委員： 北川原 温（建築家・東京藝術大学教授／審査委員長）
 渋川 恵男（七日町通りまちなみ協議会会長）
 飯嶋 俊比古（構造家・飯島建築事務所代表）
 石田 保夫（SUS株式会社 代表取締役社長）

賞 典： 最優秀賞 （1点） 賞金100万円
 優秀賞 （2点） 賞金30万円

主催： SUS株式会社ecomsgroup
 後援： 七日町通りまちなみ協議会
 協力： AXIS、日本デザインコミッティー

ホームページ： <http://ecomsgroup.sus.co.jp/>



コンペのモデルとなった福島県会津若松市七日町通りにある蔵群(アイソメ図)

【SUSアルミ共生建築Competition 各賞受賞作品】

<最優秀賞>

受賞者：岩本 賀伴さん(35歳、岩本賀伴／アトリエ)

作品名：ZQWXUGL

作品説明(作品パネルより)：

七日町通りから路地状の細い道路を分岐させ、敷地の奥まで引込むことでそれぞれの蔵を接続。用途は、物販店舗・資料館・飲食店・工房・休憩所・インフォメーションセンターなどを複合させた形で、それぞれをテナントとして貸出すことを考えている。また、路地状の通路に接して設けられた具体的な施設の他に、露店や屋台も加えることができるような広場を設けた。これら全体の計画を、アルミという素材を使い、耐震と意匠、両方の視点から編集した。一つ一つの蔵の存在感を活かしながら、全体の関係もまとまってゆくような繋がり方をアルミを用いて試みた。それは、蔵々の建つ路地裏のようなミクロな視点と、柔らかくアルミで網かけされた一まとまりの大きな建築物のようなマクロな視点が共存する空間であるのと同時に、歴史的なものと現代的なものが等価に隣り合う姿の具現化である。沢山の切口を残しながら、それぞれが共生してゆく建築の在り方が、スクラップ&ビルドでもなく、保存の方向でもない建物の接続に対する一つの選択肢になればと思っている。

選評(審査委員総評より抜粋)：

アルミという素材をうまく使い、会津若松の地域性、伝統、歴史、文化に対して、ピタッと合っていて、しかもキラッと光る輝きをもった独創的なデザインが大変印象的でした。アルミの存在感があり、美しい艶をもった緊張感が漲っている。ていねいにつくられた模型からも作者の高い美意識が伝わってきます。(審査委員長・北川原温)

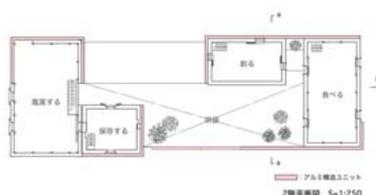
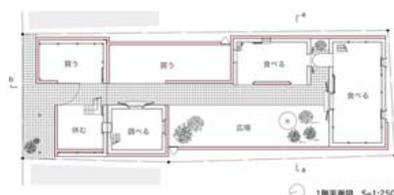
アルミ型材で構成した、構造材を兼ねたスクリーンの提案です。仕上げ材としても構造材としても機能するアルミの特長をうまく引き出していると思います。(審査委員・飯嶋俊比古)



ZQWXUGL



七日町通りから路地状の細い道路を分岐させ、敷地の奥まで引込むことでそれぞれの蔵を接続している。用途は、物販店舗・資料館・飲食店・工房・休憩所・インフォメーションセンターなどを複合させた形で、それぞれをテナントとして貸出すことを考えている。また、路地状の通路に接して設けられた具体的な施設の他に、露店や屋台も加えることができるような広場を設けた。これら全体の計画を、アルミという素材を使い、耐震と意匠、両方の視点から編集した。一つ一つの蔵の存在感を活かしながら、全体の関係もまとまってゆくような繋がり方をアルミを用いて試みた。それは、蔵々の建つ路地裏のようなミクロな視点と、柔らかくアルミで網かけされた一まとまりの大きな建築物のようなマクロな視点が共存する空間であるのと同時に、歴史的なものと現代的なものが等価に隣り合う姿の具現化である。沢山の切口を残しながら、それぞれが共生してゆく建築の在り方が、スクラップ&ビルドでもなく、保存の方向でもない建物の接続に対する一つの選択肢になればと思っている。





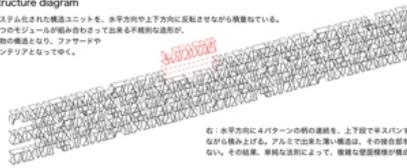
アルミジグザグブロック式組構造 一既存不適格建築物への可能性一

賑わい集まるまで取捨を確保するため、ファサードに関しては特に、壁の一部を撤去して前面道路に対して大きく開いている。取り除かれた壁の構造耐力を補う制震要素として、このアルミ構造を採用することで、高い開放性が得られている。伝統的な貫構造のしなりのあるゆれに合わせて、ネット状の構造が既存建築物を突きかかえるように結ぶ構造である。形勢としては一定距離に接合する折れ曲った壁だが、実は一つのユニットを上下左右に反転して組み合わせた単純な原則によって構成されている。あえてパターンが異なるように調整されているが、この組み合わせによって、進行性や汎用性を図りながら、なにか建物に感じ合う自然の秩序、例えば星形の複雑な反復性のようなものを表現できないかと考えた。連続するアルミの構造ユニットが、視覚的に面々を見つづけることで、全体的にも統合された風景をつくり出している。また、ここでの構造に関する提案は、従来の形を活かす方向での木造とアルミ造の混構造である。従って木造建築物の制震改修の補強方法としての転用の可能性も視野に入れている。

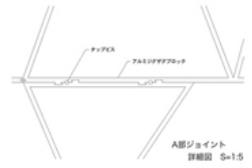
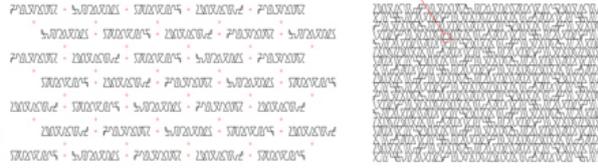


structure diagram

システム化された構造ユニットを、水平方向や上下方向に反転させながら構築している。一つのモジュールが組み合わさって出来る不規則な造形が、建築物の構造となる。ファサードやインテリリアとなつてゆく。



右：水平方向に4パターンでの構造の連続を、上下段で半ズレインツプしながら積み上げる。アルミで出来た新しい構造は、その接合部を隠さずせない。その結果、単純な方法によって、複雑な建築効果が構成される。



<優秀賞>

受賞者：猪股 宗一さん(22歳、早稲田大学大学院 入江正之研究室)

作品名：創発 — アルミと蔵 —

作品説明(作品パネルより)：

設計対象の土蔵群を会津若松の文化を体感できる施設へとコンバージョンする。それぞれの土蔵に七日町の情報センター・郷土料理体験コーナー・伝統工芸体験コーナー・物産品販売所・事務室といった用途を設定する。そして、それらの機能を補助するためのアルミコア構築物を土蔵に挿入する。また、分散して配置されている土蔵群の周囲に、それらを接続し拡張するための空間を設ける。その空間は既存の木を用いた3つの庭の間を縫いながら、土蔵の開口を繋ぐように配置されている。蔵に面する壁面はアルミで、それが土蔵の開口から侵入して内部に寄生するようにコア空間が形成される。土蔵周囲の増築部とアルミコアは、アルミの素材と土蔵の対比を生むために極力接しないように計画した。プログラムにおける相利共生と、それぞれの物性が対峙したときに生じる緊張感は、アルミと蔵の新たな「創発」関係を生み出す。



<優秀賞>

受賞者: 小石川 正男さん(61歳、日本大学短期大学部 建設学科 小石川研究室)

高田 康史さん(27歳、日本大学短期大学部 建設学科 小石川研究室)

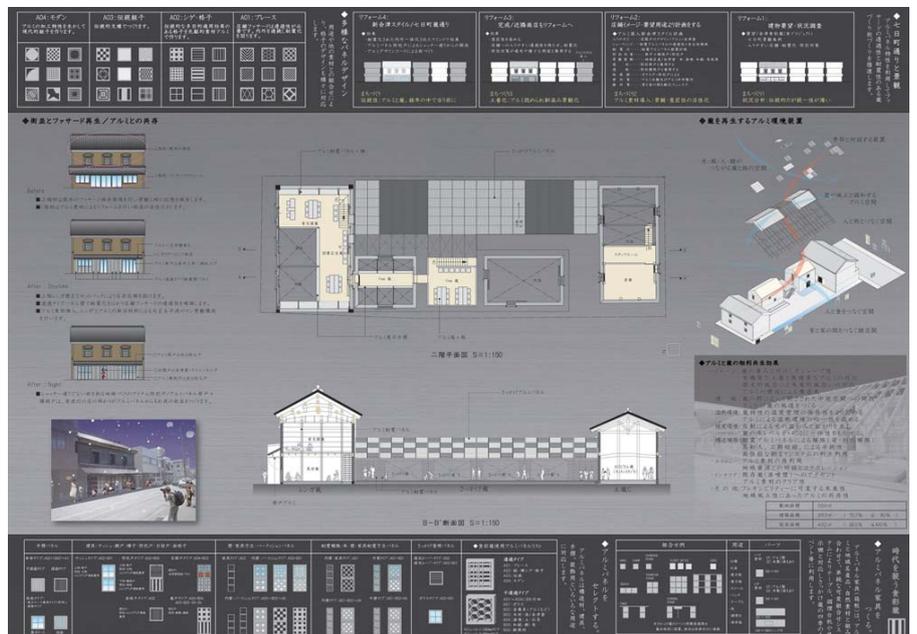
横村 隆子さん(54歳、有横村隆子 YHT 環境設計)

作品名: 時代を装う食彩蔵 一時をつむぐアルミ万華鏡

作品説明(作品パネルより抜粋):

本提案は、地域風土や四季を反映した独自の文化のある『会津の食』、魅力と歴史・風合を兼備えた蔵にアルミという先鋭的な素材を挿入した『新会津スタイル蔵』で、名産食の紹介、開発を行い、郷土料理の伝承文化を育てながら、新しい空間を創造させてくれるアルミと共に次世代につむぐ場として蘇り再生する提案です。

母屋や屋敷蔵に連続性を持たせるために会津地方で用いられる“さっかけ”(大屋根)をアルミ材とアルミパネルで造り、土蔵A、移動した土蔵Bの上に掛け、食を中心とした活動空間を演出します。レンガ蔵、土蔵には耐震化を目的に、アルミ屋根への葺き替えやアルミ柱を設置し、壁材はファサードの透過性と耐震性を考慮し、多様なデザインのアクリルパネルで再生します。また、壁材のアクリルパネルと同様、四季の移ろいに合わせ衣替えができるよう、展示棚や什器は、アルミと地域名産品、自然素材とを組み合わせ、単純な可変組み合わせシステムを用いています。



【審査委員総評】

■北川原 温(建築家・東京藝術大学教授／審査委員長)

最優秀賞の「ZQWXUGL」は、アルミという素材をうまく使い、会津若松の地域性、伝統、歴史、文化に対して、ピタッと合っていて、しかもキラッと光る輝きをもった独創的なデザインで大変印象的でした。アルミの存在感があり、美しい艶をもった緊張感が漲っている。ていねいにつくられた模型からも作者の高い美意識が伝わってきます。

優秀賞の「創発 -アルミと蔵-」は、プランニングもデザインも知的でとてもよくできていて完成度が高いと思います。素晴らしいバランス感覚を感じます。ただ、会津若松の歴史風土を考えると、繊細すぎて少しおとなしいかもしれません。

同じく「時代を装う食彩蔵 -時をつむぐアルミ万華鏡-」は、たぶん現地をよく調査されたのでしょう、いろいろな観点から考えられていて総合性が際立っています。一方で、きらっと光るところが見られるとよかったです。

入賞しなかった案の中にも優れた作品がいくつもあり、全体として予想以上にレベルが高いと感じました。実際に建てられるという実現性も考えなくてはならないという、リアリティを重視するコンペであるため、非常に難しいと思ったのですが、その点についてもよく考えられた案が多く見られました。最優秀案の実現はもちろんですが、今回のコンペに寄せられた優れた提案が、別の敷地でひとつでも多く実現してほしいと思います。

■渋川 恵男(七日町通りまちなみ協議会会長)

私は、会津若松市七日町通りのまちづくりという観点から考えさせていただきました。会津若松の文化、風土が継承されながらも、新しい文化とうまく融合して、さらに新しい文化が創出されるような案を選びました。期待あふれる案が多く、とても楽しく審査をさせていただきました。

上位に入った案は、当然、敷地を課題として提供していただいた方にも見ていただきます。確約はまったくできませんが、具体化であるとか、展覧会の開催に至れば、話題性にもなりまちの活性化につながります。結果として、ここにいろいろな方が全国から集まっていたいただければと期待しています。

■飯嶋 俊比古(構造家・飯島建築事務所代表)

テーマのとらえ方が多様であることに驚かされました。ビジネス展開というとらえ方をされた方もいらっしゃいますし、全体の計画をどうするか、中間領域をどうデザインするか、あるいは部品そのものの開発といった視点で取り組まれた方もいますし、同じテーマであってもいろいろな考え方があることを実感しました。

最優秀賞の「ZQWXUGL」は、アルミ型材で構成した、構造材を兼ねたスクリーンの提案です。仕上げ材としても構造材としても機能するアルミの特長をうまく引き出していると思います。

優秀賞の「創発 -アルミと蔵-」は、構造的に自立したアルミコアを蔵に挿入し、点在する4つの蔵に連続性を持たせたことが面白いと思います。建築的要素が非常に高く、完成度も高い提案です。

同じく「時代を装う食彩蔵 -時をつむぐアルミ万華鏡-」は、「さっかけ蔵」という地方の空間的ポキャブラリーをアルミで構成し、既存の蔵と蔵との間に連続性を生み出しています。また、それに耐震パネルやアルミの家具といった要素も加え、総合的にデザインされていると感じました。

SUS(エスユウエス)株式会社 概要

- 【本社】 静岡県静岡市清水区尾羽105-1
- 【東京事業所】 東京都千代田区平河町2-1-1 ORIKEN平河町ビル2F
- 【事業内容】 アルミ製住宅及び建築用アルミ構造材の設計開発、製造販売。
アルミ製オーダーメイド家具及びアルミ建材の製造販売。
FA(ファクトリーオートメーション)向け機械装置及びユニット機器製品の設計開発・製造・販売。